



リユウキンカ

文責 窪田

ノーゲーム・ゲーム？

ある町では、町内放送で毎週決まった曜日に、「今日はノーテレビ・ノーゲームデーです。」と児童や生徒の声が流れています。免田小学校では、毎月第三水曜日を「家族の日」としてノーテレビ（ノーゲーム）親子読書を勧めています。現在、多くの保育園、幼稚園、小・中学校でこのような取組が行われていますが、今回はそのきっかけや意義について、改めて確認してみます。

否定ではなく…

「ノー」という言葉から、何か否定しているように感じられますが、「テレビやゲームなどのメディアは悪。」とするものではありません。私たちに身近なテレビは、生活に欠かせない情報や心を豊かにするものなど、価値ある内容をたくさん提供してくれます。その他のメディアからもちとくさんの恩恵を受けて、私たちは生活しています。

では、なぜ？

先に述べたように、全てが「悪」ではありませんが、次のような影響や問題が指摘されています。

- ① 一度スイッチを入れたら、なかなか切ることができなくなる。夕方テレビのスイッチを入れたら、寝るまでそのままという状態も多いのではないのでしょうか？
- ② 親がテレビ・ビデオ・スマホをみながら、あるいはテレビ・ビデオ・スマホにまかせせる育児は、笑顔が少ない、視線が合わない、言葉が乏しいなど、対人関係の発達に問題がある子どもをつくる危険があります。（特に乳幼児期）
- ③ 思春期の青少年たちの過剰な不適切なメディアへの接触は、脳（こころ）の疲労「慢性疲労」を増強させて気力や自分の気持ちを持をコントロールする力を奪い、新たに登場し

た社会現象（理由のないいじめ、むかつく、きれる、不登校）や反社会的事件につながる危険性が心配されています。

- ④ ゲームは過激な興奮と緊張を与え、ゲーム中毒を生み出す危険性があります。

はじまりは？

約20年前に、福岡県のいくつかの保育園が協力して、メディア漬けから離れるための実践的な試みをしたのがはじまりです。毎月1日をテレビを見ない日とすることを呼びかけ取り組みました。

その結果、「家族の会話が増えた」「いっしょに遊ぶ時間が増えた」「食事の時間が早くすむ」「時間がゆっくり感じられた」などが報告され、このような体験の積み重ねから、時間感覚や生活習慣の歪みへの気づき、子どもの時間の過ごし方の違いや新しい能力の発見など、様々な成果が報告され、以後、急速に広がってきています。

ゴールは？

メディアとの関係を断つことが最終目的ではなく、メディアに支配されない生活を営むために、親子の対話、ふれあい、向かい合いの楽しさが実感できるようにすることや家庭内の遊び文化を高める取り組みを行

い、子どもたちにとって少しでもよい環境をつくり、将来メディアに主体的に関わっていく力を付けることを目指しています。
どうか、ご理解とご協力をお願いします。

文部科学大臣表彰

表彰状

あさぎり町立免田小学校 殿

貴校は学校給食の実施において優れた成果を上げられました。ここにこれをたたえ表彰します

平成29年11月9日

文部科学大臣 林 芳正

先日鹿児島市で開かれた全国学校給食研究協議大会において、免田小学校が学校給食優良校として、文部科学大臣表彰を受賞しました。
二年間にわたる食育の取組が認められてのものです。これからも生きるための基盤となる、食育に精進してまいります。

楽しい冬休み
(命を大切に)